

JR東海 労なごや

2024年5月24日 No.1234
JR東海 労名古屋地方本部
発行者：荻野隆一
編集者：教宣部

リニア中央新幹線工事、瑞浪で水枯れ！現地を見に行く ここで水漏が防げなければ南アルプストンネルは掘れない！



リニア中央新幹線工事が進むほどあちこちら綻びが出ています。岐阜県瑞浪市大湫町でリニア中央新幹線のトンネル掘削工事が原因と見られる、井戸水やため池などの水位低下が発生しました。水位低下はJRが設置した観測用井戸3本に加え14カ所にも及んでいます。私たちJR東海 労名古屋地本は、すぐ現地にむかい現状を見てきました。

ひび割れたため池(組合員撮影))

住民は工事を止めなかったJR東海に不信感をつのらせる

リニア中央新幹線のトンネルは、大湫町中心部の大湫盆地の地下を通過します。盆地の上は水田が広がっており地元住民から不安の声が上がっています。15日以降連日、TVや新聞で枯れた井戸の画像などが紹介されていました。特にため池などは前日の雨で水が写ってるものの下の地面はひびわれ事態の深刻さを物語っていました。

JR東海は、ここにきてようやく工事を中断し調査を開始し詳しい状況や湧水発生の可能性をわかるようにすると対策を発表しました。

しかし今年2月にJR東海が設置した試験用の井戸3本で水位低下が見つかった後も工事を続けたJR東海に地元の不信感が強まっています。



300年の歴史を持つ「天王さまの井戸」も枯れる

万全な漏水対策などありはしない

JR東海によると20日から代替え水源の井戸を掘り始め、また現在湧水が発生している出口を溶液でふさぐ処置をすることとしました。重い腰を上げたJR東海でしたが、ここで漏水対策ができなければ、とうてい南アルプスにトンネルなんか不可能でしょう。また完全に水を止めるのは困難だと言われています。まさか国家的プロジェクトに、一部の住民の犠牲はしょうがないと言うのでしょうか。あらためてリニア中央新幹線計画の無謀さが見えます。様々の場所でリニア中央新幹線工事が綻びを見せています。強引に進めるプロジェクトに展望はあるのでしょうか。

犠牲になるのは住民ばかりでなく、工事を進める会社の社員もです。

今こそリニア中央新幹線が本当に必要か考えましょう！